

The diagram illustrates a classroom layout for two classes, Class I (クラスⅠ) and Class II (クラスⅡ). In each class, the teacher (教授者) is positioned at the front, indicated by a green circle. Students are represented by yellow smiley faces, and a pink heart symbol represents a Japanese learner who needs it (日本語学習を必要とする人). A vertical line separates the two classes, with an arrow pointing to it labeled '日本語学習 サポーター' (Japanese Learning Supporter). Below the diagram, a note states: '声が響かないように、パーテーションを取り付ける。' (Attach the partition so that the voice does not echo.)

■市役所内各担当部署・岡山市内NPO・各種機関・団体との連携



【交通指導員による交通安全講座】



【消防署員による防災講習】



【防災訓練のバケツリレー】



【図書館を利用する】

■実体験を伴う授業活動・日本人との交流や日本語の活動を通じての実践的な日本語習得



【病院で診察を受ける】



【市役所に電話して通訳を呼ぶ】



【引っ越しの挨拶をする】



【エコバッグを作る】

■地域の外国人支援活動・多文化共生を推進するための基盤作り



【日本語教室の展示】



【習字の展示(一文字書展)】



【総社国際フェスタへの参加】



(2) 地域に根ざした日本語学習サポーター育成研修

地域住民を対象に、言葉の壁によって地域社会と孤立しがちな外国人住民の生活支援の一環として、日本語学習をサポートする方法について実践的な研修を行い、地域社会に暮らす隣人として外国人住民を支える「日本語学習サポーター」を育成することにより、外国人支援活動を根付かせ、地域の多文化共生活動を推進するための基盤作りを行うことを目的に開講しました。

【日本語学習サポーター育成研修の特徴】

■地域における外国人住民の状況や、「やさしい日本語」の指導など、外国人支援に関する基礎的知識を習得する「学習研修」と、「地域でつながる日本語教室」に参加して実際に外国人住民と交流をしながら、日本語学習をサポートする方法を実践的に学ぶ「実践研修」の2つの研修から構成。

■日本語学習サポーターが日本語教室に参加し、日本語学習支援を行うとともに、地域住民同士がつながる場となるようにする。

(3) 地域密着型日本語学習教材作成事業

地域に暮らす外国人住民が、日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報が得られる学習教材を作成し、日本語教室で利用するだけでなく、地域社会で安心して暮らせる生活指南書として活用できるようにすることを目指しました。

【本編】

平成24年度総社市版「生活者としての外国人」に対する日本語教育カリキュラムに基づき、学習シラバスを構成。

【ひらがな・カタカナ一覧表】

ゼロ初級レベル用文字教材

【漢字練習シート】

日本語教授者オリジナルの「生活場面に即した漢字」の練習シート

【総社市日本語教室でのイベント】

職員による講座や体験学習、イベント



4. 成果と課題

日本語教室が日本語を学ぶ場としてだけでなく、日本語学習サポーターの参加により地域住民同士がつながる場として機能しており、市各担当部署との連携により行政情報の提供もスムーズに行っている。今後も地域社会との連携を強化しながら事業を継続していきたい。



総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の概要

総社市長 渡辺 人海・まちづくり課 課長補佐 西 国寿・交流推進係 西 川 茂 貴
岡山大学大学院 教授 総社市日本語学習支援委員会 コーディネーター 中 重 謙 彦

1. 総社市における外国人の状況—ブラジル人居住地域—

総社市は、岡山県西部に位置する人口7万弱の自然豊かな地方都市です。市域には自動車部品工場が集中した地域があり、入国法改正以降、日系系メーカーからあるブラジル人、ペルー人をはじめとする多くの外国人労働者が定住してきました。外国人労働者は平成20年以降に急増したと見られ、総社市は経済危機以降、減少しています。平成25年現在の総社市外国人人口は738人であり、総人口57,577人の1.02%を占めています。国籍別ではブラジル人が最も多く、半分以上、ブラジル、韓国、フィリピン、パナマ、インドネシアなど合計24か国の外国人がいます。総社市は外国人労働者もいるブラジル人企業、岡山県内で最も多いブラジル人企業都市です。平成22年度より、中核型・九州地方唯一の外国人居住都市自治体の会員メンバーとなっています。

総社市の外国人労働者数の推移(単位:千人) (H1～H25)



2. 総社市地域参加型生活サポート日本語教育事業の概要



(2) 事業の実施・連携体制

総社市内外関係機関等、岡山県内NPO・各種機関、関係者の連携



総社市内外関係機関等、岡山県内NPO・各種機関、関係者の連携



総社市内外関係機関等、岡山県内NPO・各種機関、関係者の連携



総社市内外関係機関等、岡山県内NPO・各種機関、関係者の連携



総社市内外関係機関等、岡山県内NPO・各種機関、関係者の連携